

タブレット端末活用ガイドライン

令和5年度版

西原町情報化推進計画等を踏まえて、GIGAスクール構想に伴うタブレット端末の導入等に関する方針を以下に示す。

1 基本方針

児童生徒が様々な場面で1人1台の端末を手段として活用することを通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「個別最適化された学び」を充実させることにより、児童生徒の「自ら学ぶ意欲」を高め、情報活用能力を含む「確かな学力」の向上を図る。

2 1人1台端末の活用についての基本的な考え（ICTを活用した教育の充実）

（1）「主体的・対話的で深い学び」につながる授業等での活用

- ①各教科、総合、特別活動等の授業での活用（協働学習、個別学習、一斉学習）
- ②デジタルとアナログを融合した児童主体の学習展開での活用

（2）情報活用能力の育成につながる活用

- ①課題解決に向け、端末を適切に活用した、調べて、まとめて、伝える活動の充実、
- ②目的意識、相手意識を持ち、自らの考えを「伝える活動」の充実

（3）活用を通じた情報モラル教育

- ①様々な活用場面や情報の収集、判断、処理、発信の場での指導
- ②情報モラル教育及び情報セキュリティ教育の実施（道徳、特別活動等）

（4）ドリルソフトによる個に応じた学習の充実

- ①ドリルソフト、文部科学省CBTシステムを活用した個別学習、形成的評価の充実
- ②学習履歴、進捗状況、理解度の一元管理による個別指導の充実

（5）プログラミング教育における活用

- ①プログラミング教材を活用したプログラミング的思考力の育成
（小学校全学年、中学校技術科）

（6）特別支援教育における活用

- ①発達の特性や段階に応じた活用
- ②学習上、生活上の困難を改善・克服するための活用

（7）家庭学習での活用

- ①端末を持ち帰っての家庭学習や週末課題等の実施

（8）個別の配慮が必要な児童生徒への支援への活用

- ①不登校や日本語指導が必要な児童生徒へのオンライン・オンデマンド授業

（9）臨時休業等の非常時における活用

- ①オンライン授業、オンデマンド授業、安全確認等での活用
- ②ドリルソフト等を活用した課題の送受信

3 配布端末及び関連する環境整備について

- (1) FUJITSU 10.1 型ワイド防滴・防塵タブレット ARROWS Tab Q5010/EEG (GIGA スクールモデル)
※タッチペン、充電のためのケーブルは保護者負担。
- (2) 授業支援ソフト
 - ① SKYMENU Cloud (拡張キット) の導入 ※フル機能
 - ② Microsoft Teams の導入 ※Office(Word、Excel、PowerPoint)インストール済み
- (3) 教育用ソフトウェア
 - ① ドリルソフト「タブレットドリル」の導入※小中主要5教科、令和3年度から利用開始
 - ② まなびポケットの導入 (タブレットに同梱、無料版のみ)
 - ③ 文部科学省C B Tシステム (MEXCBT:メクビット) の活用
- (4) デジタル教科書
 - ① 教師用デジタル教科書の導入 (主要5教科)
 - ② 学習者用デジタル教科書の活用 (小中学校全校で文科省実証実験参加) 外国語・英語
- (5) 高速通信ネットワークの整備
 - ① 校内通信ネットワークの整備、インターネット回線の高速化。
 - ② Wi-fi 環境のない家庭へモバイルルーター貸出が可能。(通信費保護者負担)
- (6) オンライン授業、オンデマンド授業のための機材の導入
- (7) プログラミング教材「ME S H」の導入、貸出 (18台、小学校6年理科教材)
- (8) 無料映像授業サービス「T r y i T」の導入 (中学校のみ)

4 教職員への研修等について

- (1) 西原町モデルの作成と周知 (活用授業モデル)
- (2) 機器操作研修の実施 ※R5年度は全校で4月に実施
 - ① 情報教育推進リーダー、ICTリーダーへの研修
 - ② 校内での伝達講習
- (3) 授業での活用促進に関する取組
 - ① 校内研究等への位置づけ、端末を活用した研究授業の実施
 - ② タブレット活用研修会における研修や公開授業の実施
 - ③ 中学校区小中連携研究授業での端末を活用した公開授業の実施 (6月、7月)
 - ④ 授業での活用に関する研修の実施 (各学校、指導主事による)
 - ⑤ 指導主事による授業参観、サポート (各学校、定期的に)
- (4) サポート体制
 - ① ICTサポーターによる支援 (設定、維持管理等)
 - ② フィルタリングソフトによる対応 (持ち帰り時も対応)
 - ③ 自然故障、物損故障は令和3年度から3年保障 (令和5年度まで)
 - ④ 沖縄女子短期大学との連携、授業支援 (主にプログラミング教育)

5 教職員の働き方改革の推進

- (1) 統合型校務支援システム「スズキ校務」、学校用グループウェア「ミライム」による業務の効率化、情報の共有
- (2) 出退勤システム「ミライム」による勤務時間の管理、出張命令・休暇処理等のワークフロー機能の導入による業務の効率化